手と手をつないで

No.396

山本　信哉（やまもと　しんや）
（元小学校教諭）

「知らないことは罪です。」

これは今から20年ほど前、水俣市（熊本県）を訪ねた時、水俣病の証言者の方が語られた言葉です。

水俣病を発症したと分かった瞬間から「家の雨戸を閉めろ。」、昨日まで誰もが利用できていた道を「通るな。」家に石を投げられる・・・。隣人として、地域の仲間として手を携えていたはずの人たちからの排除が始まったと話されました。ここで語っていただいたことは私の知らないことばかりでした。

「知らないことは罪です。」

私が、今も忘れられない、重く受け止めている言葉です。水俣病のことを教科書に書いてあることしか知らない、小学校の教師として教科書でしか教えてこなかった私に、真実を知らなかった、知ろうとしてこなかったのだと気づかせていただきました。

水俣病は1950年代高度経済成長期に起こった公害病の一つです。原因のもととなったのはメチル水銀。この公害はメチル水銀を排出した企業の責任、公害による被害防止をしなかった行政・国の責任へと拡がっていきます。それと同時に、さまざまな形による差別が生まれます。

伝染（うつ）る、祟（たた）りなどといったデマや迷信から差別は始まり、患者さんやその家族の苦しみが始まります。さらに、地域から始まった差別は、結婚差別や就職差別など様々な差別へと拡大していきます。互いに助け合っていた地域は互いの疑心暗鬼（ぎしんあんき）へと変わり、分断されていきます。

「知らないことは罪です。」

この言葉に証言者の方は、どのような意味を、そして思いや願いを込めたのでしょう。

本年度も、この「手と手をつないで」のページを担当させていただくことになりました。今、世の中にはたくさんの情報があふれています。何が本当のことなのか、真実なのかわかりにくくなっています。本年度は「知る」ことをテーマに太宰府市の皆さんとともに、さまざまな立場に立ったり、さまざまな面から物事を見つめたりしながら学びあいたいと思います。違いを排除するのではなく、近づく努力をし、同じ風景を見るその一瞬を積み重ねていくために。

手と手をつなぐために。